

「戦艦ウエストバージニアの慰霊碑を真珠湾に建立したい」

海原会会員

(甲飛十三期) 脇田四郎

本年一月十四日、来日されたウエストバージニア(以下「WV」と記述する。)大学教授の佐竹正治氏と東京ステーションホテルで海原会の菅野理事、平野事務局次長、脇田四郎が面談しました。その時伺ったお話を中心に佐竹教授と海原会のかかわりなどについて紹介します。

佐竹教授は、日本生まれで七歳の時父親と共にアラスカへ移住。爾来、今日までアメリカと日本を行き来する生活で、今はWV大学に勤務し陶芸を指導されており

「真珠湾の海水と前田武さん(甲飛三期生)」について

昨年十月頃、米国東部のバージニア州にあるWV大学で陶芸を指導されている佐竹教授の教え子で、既に卒業して日本在住の福田ゆかりさんに佐竹教授から「海原会へ電話をして『前田

さんが真珠湾の海水が入ったボトルを手に持っているスナップ写真』を撮って欲しい」という依頼がありました。そして、その依頼を受けた福田ゆかりさんが、海原会にかけた電話を受けたのが平野事務局次長でした。電話の内容は「真珠湾の海水が入ったボトル」を持参するので、その『ボトルを手に持つ前田さんのスナップ写真』を撮って欲しい。ついては、十一月 佐竹教授が教え子の学生を連れて日本経由で中国に行く途中、成田空港でトランジットの間に平野事務局次長にボトルを手渡すのでなんとか力になっていただきたい。」というものでした。その時点では詳しい説明もなく、ただ佐竹教授の切実な思いは平野事務局次長に伝わったという事です。

「戦艦ウエストバージニア(以下「戦艦WV」という。)のマス」について

佐竹教授は、WV大学で陶芸の指導をされており、日頃学生には「世界中に旅行しているときに自分で取り組む課題を見付

けて考えるように」と指導しておられました。四年前学生を連れてアラスカに行った帰りにハワイに立ち寄った時、真珠湾記念館で「戦艦WV」に関する話を聞く機会がありました。この話を聞いた学生たちが「戦艦WV」と自分達の大学の名称に関係があることを知り、新しい研究テーマとして取り上げることとしたそうです。

丁度その頃、佐竹教授は、大学構内を犬を連れて散歩していた時、船のマスがあるのを見付けたのでよく見ると、それは「戦艦WV」のものであると簡単な説明がしてありました。後日教授は、米国の戦艦の名称は、全米の各州の名前を使用している事を知りました。戦艦ミズーリ、戦艦オクラホマ、戦艦ウエストバージニア等です。現在は大統領の名前などを艦名にしています。

「戦艦WV」は、真珠湾攻撃時に日本の攻撃を受けて座礁しましたが、幸い海底が浅かったのと傾斜しただけだったので修復して復帰させるために再建造を

行うことになりました。

そして、この時に、多くの部品や備品などで再使用ができない部位は処分するのではなく、バージニア州内の各施設に記念品として配布されていたのです。

教授は、そのような関係でWV大学には「戦艦WV」のマスが記念に残されていた事を知ったのです。

「前田さんとの接点」

昨年五月、学生を連れてアラスカに行き、その帰路ハワイに立ち寄り真珠湾記念館を訪ねた時に、記念館学芸員のスカット・カラスキーさんから「戦艦WV」と前田さんとの関係を詳しく知っている人がシカゴにいます」と言うことでMr Ron Wさんを紹介されました。すぐに、連絡したところRonさんから「戦艦WV」と前田さんとの詳しい関係を知ることができました。また、記念館のマルチネスさんにも電話して「戦艦WV」と前田さんとの話を聞くことができました。以上のような経緯をたどり、学生達が考えていた新しいプロジェクトにこの「戦

艦WV」とWV大学の関係を取り上げるようになったそうです。そして、新たに作成する、このプロジェクトのパンフレットのページに、「真珠湾の海水の入ったボトル」を持つ前田さんの写真を掲載したいと思いたち、佐竹教授が京都におられる教子の福田ゆかりさんに前田さんと関係のある海原会へ電話して写真の件を依頼してもらおうようにお願いしたものでした。

### 「戦艦WVプロジェクト」

教授は、真珠湾攻撃時に「戦艦WV」に魚雷攻撃をしたのが前田さんであることを知り、米国内の「戦艦WV」の関係者に連絡を取ったところ、真珠湾攻撃時の乗組員は現在十四名が存命していること、「戦艦WV」は一九六四年まで、現役として就航した後退役となったが、それまでのベテラン乗組員約四百名が再組織されていて毎年集まっていることなどを知ることができました。また、ベテランの皆さんは、昨年はニューオリンズで集会を行った事などもわかりました。

「戦艦WV」に関係するプロジェクトは四年ほど前から学生を中心に考えられていましたが、調査を進めていくうちに、当時生存していたベテラン乗組員を紹介するビデオが二十年ほど前に、作られていた事が分かり、早速これらのビデオを入手して見た学生達は、真珠湾記念館で紹介されたロンさんと連絡を取り次は、自分達で「戦艦WV」に関するビデオを作成することにしたそうです。

前田さんが攻撃当時の様子を克明に話すビデオを見て、学生達は自分達で日本語を英語に翻訳してテロップを付けた動画を作り、ユーチューブに投稿しました。タイトルは「I Sank the West Verjinia」です。

そして、昨年五月の真珠湾訪問から大学に戻った学生達が次に考えた新しいプロジェクトは「戦艦WVの慰霊碑」を真珠湾に建立しようというものでした。学生が中心になって活動が始まりました。この計画には政府の協力もあって真珠湾のフォード島にある戦艦オクラホマの墓碑

の裏側にある建物を撤去してそこに慰霊碑を設置できるようになりました。今年の十二月七日の真珠湾慰霊式典の時に除幕式を行いたいと計画しているのですが、教授は現段階では難しいと思っておられます。

現在WV大学では、この「戦艦WVプロジェクト」を十名の学生が中心になって進めています。その中には中国からの学生も一人参加しています。今年も五月頃にHNLへ行く予定をしており、現地を見て彼等が自分達で慰霊碑のデザインを考えて作ってくれることになっているそうです。

十二月に真珠湾に「戦艦WV」のベテラン達が集まり七十五周年の慰霊祭を行う計画がありませんが、慰霊碑の建立はその時までに間に合わせるのには難しいだろうと教授は言っておられました。

日本国内でも、最近、筑波大学や東京大学の大学院生が、時を同じくして豫科練と地元である阿見町の関係について研究論文を発表するなど、戦後七十年

を過ぎていろんな視点からの豫科練研究が進みつつあります。現在を理解するためにも過去を正しく知ることが重要であり、そのような観点から佐竹教授の取り組みは高く評価されるものだと思います。

### 【参考】

(WV大学があるバージニア州のモルガンタウンは人口が約十万人で、そのうち約三万四千人が学生の、大きな大学の町です。以前は石炭の町でしたが、今は関連する施設などは全て閉鎖されています。)